

第7回 清和台地区学校のあり方を検討する懇話会

令和8(2026)年3月23日
於:清和台中学校
午前10時~



目次

1. 川西養護学校との意見交換について

- (1) 川西養護学校保護者との意見交換
- (2) 川西養護学校教職員との意見交換

2. 清和台地区保護者との意見交換について

3. 清和台地区児童との意見交換について

4. 今後のスケジュールについて

(1)川西養護学校保護者の意見

【実施日】 ほごしゃサロン 2月10日(火) 10:00~11:00

【参加人数】 5名(小学部3名 中学部2名)


【実施日】 2月17日(火)~3月13日(金)

※保護者個人懇談後に個別に実施

【実施人数】 小学部11名


場所について

- ①清和台は猪名川町からも通いやすい場所で、とても良いところだと思う。
- ②別の地域に移るとなると、一から住民の声を聞くところから始める必要があり、スクールバスや送迎車の通行について理解してもらっている清和台が良いと考える。
- ③川西には重度の子どもが通える放課後等デイサービスの数が少ない。学校の場所が変わることで現在通っている事業所に通えなくなる可能性もあるため、学校の場所は変わらない方が良い。
- ④放課後等デイサービスや自宅からの送迎を考えると南部にある方が嬉しいが、現実的には難しいだろうとも理解している。
- ⑤自家用車を持っていない保護者にとっては公共交通機関が通っている場所が良い。
- ⑥仮設で一時的に不便になることは仕方ないと理解している。しかし、我が子は特に体温調節が自分でできないので、夏や冬の空調機能などは、仮設の場合でもしっかり確保してほしい。
- ⑦仮設は建てずに、統合で空いた小学校の敷地に養護学校を新設し、一度の移動で済む形が理想だと思う。環境の変化に敏感な子どもが多いので、負担を減らす工夫ができれば良いと思う。

- 
1. 清和台は川西と猪名川の間地点に位置しており、場所として適している。
 2. スクールバスや送迎車の通行について地域の理解が得られている清和台が望ましい。
 3. 仮設校舎は、子どもに負担がかからないよう、安全に過ごせる環境は確保してほしい。

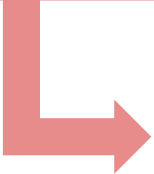
今後の教育環境について

- ① 普段から接することで障がいについて理解してもらえると嬉しい。地域全体で理解が深まることを望んでいる。障がいのある子が「いて当たり前」の状態になると良い。
- ② C案であれば交流が増え、学校が活発で明るい雰囲気になると感じる。今も、地域の学校と交流した際には、子どもが楽しそうにしており、刺激を受けている。
- ③ 今よりもいろいろな先生に出会える点も良いと感じる。小・中学校の先生たちにも川養を知ってもらえる。また、同学年で知り合える保護者も増えて良いと思う。
- ④ C案の場合は、川養の敷地もつなげて考えられるため、グラウンドも使用できそう。ぶつかったりすると危険なため配慮は必要だが、広く活動できる場所があることはありがたい。
- ⑤ 小・中学校との交流においては、先生方には子どもの状況をよく理解し、子どもが嫌な思いをしないように配慮して交流してほしい。
- ⑥ 交流は、あまり望んでいないため、交流したい子だけ参加すれば良い。
- ⑦ 感染症に弱い子もいるため、全員が同じように交流を増やすのは難しいのではないか。子どもも先生も行き来が増えると感染リスクが高まる可能性がある。

- 
1. 日常的に接する機会を増やすことで、障がいに対する理解がより深まる。
 2. C案であれば、児童間の交流が増え、先生や保護者との新たな出会いも期待できる。
 3. 交流は、児童一人ひとりの状況や特性を十分に配慮しながら進める必要がある。

建物について

- ①早急に改善してほしい部分も多い。今の環境を整備しつつ、新しい学校について考えてほしい。
- ②校舎については医療的ケアを必要とする児童生徒が通うことを前提に、**バリアフリーであることに加え、川養として独立した生活エリアを確保してほしい。**
- ③スクールバスや放課後等デイサービスの車両が複数台通行することになり、**小中学校の登下校の児童生徒と動線が重なり危険である。出入口は別々にし、安全を確保してほしい。**
- ④仮にC案のように校舎を一緒にして利用する場合でも、**川養が目立たない場所へ追いやられる形はしたくない。自然に混ざり合い、無理なく交流できる環境になってくれるとうれしい。小学校のように、明るく開放的な場所にあるのが理想である。**
- ⑤駐車場は広く整備してほしい。風雨を防げる乗降場所の確保や、福祉車両が十分に駐車できるスペースが必要。特に遠方から来る保護者にとっては、現状では駐車する場所がないため改善してほしい。
- ⑥他市の特別支援学校で良い設備があればぜひ取り入れてほしい。

- 
1. 感染症や医療的ケアが必要な児童生徒がいるため、ある程度独立した生活エリアを設けることが必要。
 2. 安全性確保のため、出入口を分けるなど、動線の工夫が必要。
 3. 駐車場を広く整備してほしい。また、最新の設備があれば、取り入れてほしい。

(2)川西養護学校教職員の意見

【実施日】 2月3日 15:45~16:15 【参加人数】 28名


建物、場所について

建物について

- ①床がコンクリートの上にカーペット敷きで寒い。密封性もないため、体温調整に支障がある子どもにとって辛い。今の最新の設備ではないため、安全面でも不安がある。
- ②現在、移動手段はエレベーターと階段のみであるため、2階で授業を行っている際にエレベーターが故障した場合の避難経路が心配。
- ③現状では学校にバスを常駐させるスペースがなく、登下校時に付きそう支援員の負担が大きい。バスが常駐できる広さの駐車場が必要である。
- ④医療的ケアが必要な子どもが多いため、他の小学校と同じフロアで生活することは難しい。感染症のリスクを考慮し、建物やフロアを分けるべきである。

場所について

- ①南部は猪名川の子どもにとって遠く、通うのが難しいと思う。猪名川の生徒が1時間以上バスに乗る状況は厳しいと思う。
- ②こどもたちの社会体験が少ない現状がある。歩いてトナリエ（商業施設）に行っているが、買い物体験できる施設が近くにあると学習面で良いと感じる。

- 
1. 子どもたちが安全に過ごせるような設備が整った施設にしてほしい。
 2. 南部は猪名川の子どものことを考えると難しいため、課題もあるが清和台が良い。


今後の清和台地区の教育環境について

C案の教育環境について

- ① C案のように日常的に一緒にいることで、小学生の頃から自然に互いを理解し、偏見を持たずに育つ環境がつけられると思う。共有スペースが設けられていると、さらに交流が深まると感じる。
- ② 小中学校との交流は少なく、年に1回程度しかないため、交流できる環境が望ましい。
- ③ C案の場合、医療的ケアが必要な子や車椅子を使用している子がいるので、ぶつかると危険である。ただ、その点についての運用は今後検討すればよい。
- ④ 交流をどこまで求めるかによって、校舎のつくりも変わる。
- ⑤ 新設する際の仮設の場所が課題である。どこかの学校をそのまま使用することは難しい。

※小学校と特別支援学校が一緒になっている学校に勤務していた方の意見(P24～27参照)

- ① 通常の学級に支援学校の子の時間割が貼ってあり、朝の会も一緒にしていた。通常の学級の一員として生活できていたので、とても良かった。
- ② 自身の経験では、教職員間で困ったり負担が大きくなったりすることは特になかった。

- 
1. 日常的に交流できる環境になるのは良い。
 2. 校舎の建て方や交流の方法については、安全が確保できるように検討が必要。

目次

1. 川西養護学校との意見交換について

- (1) 川西養護学校保護者との意見交換
- (2) 川西養護学校教職員との意見交換

2. 清和台地区保護者との意見交換について

3. 清和台地区児童との意見交換について

4. 今後のスケジュールについて

小学校保護者意見結果 まとめ

清和台小学校

実施日 2月5日(木) 授業参観、学級懇談後に実施

意見交換できた人数 70名(家庭数140) 回答率50%

清和台南小学校

実施日 2月4日(水)、19日(木)、20日(金) 授業参観、学級懇談後に実施

意見交換できた人数 73名(家庭数141) 回答率52%

アンケート(未就学含む)

実施日 2月3日(火) ~2月26日(木)

回答数 44

保護者意見の傾向

- ・少子化の進行が予測される中で、B案やC案を選択し、より魅力的で良い学校づくりを目指してほしいという意見が多く見られた。
- ・単学級の状況を解消するために、速やかに学校の統合を進めてほしいという意見も一定数見受けられた。

未就学保護者意見結果 まとめ

意見交換会

実施日 3月1日(日) 10:00~11:00

参加人数 11名 清和台公民館

新1年生保護者

入学説明会にて、今後の流れについて説明（小学校在学中に統合する旨を説明）

実施日 3月6日(金)

参加人数	清和台小学校	25名
	清和台南小学校	23名

保護者意見の傾向

- ・小学生の保護者と同様に、B案やC案を望む意見が多かった。
- ・入学説明会で話を聞いた新1年生の保護者からは、単学級に対する不安があるため、統合を進めるならなるべく早く実施してほしいという声があった。
- ・市として、子どもを増やす施策を実施してほしいとの意見もあった。

A案について

良い点

- ①とにかく早く統合してほしい。単学級を早く解消してほしい。前回の統廃合の議論から何年も時間が経っており、これ以上は待てない。子どもにとって大切な時期なのでスピード感を持って取り組んでほしい。
- ②小学校と中学校で環境を変えた方がメリハリが付くので、小学校だけの統合が良い。
- ③小学生だけの方が、子どもがのびのびと学校生活が送れると思う。
- ④初期費用が最も少ないものを選ぶべき。浮いたお金をスクールバスなどに投資してほしい。

懸念事項

- ①子どもが今後も減っていくのであれば、また単学級になって同じ状況になってしまうのではないか。
- ②普通の小学校になるだけ。どうせなら、子どもにとって魅力的な学校を作してほしい。
- ③どちらかの学校を使うとなると、通学距離で不公平感が残る。

B案について

良い点

- ① 中学校と連携できることは魅力的に感じる。中学校に早く慣れることができそう。
- ② 将来を見て、子どもたちにとって良い学校を作してほしい。
- ③ 今後も人数が少なくなるのであれば、小中一貫校にすれば良い。
- ④ 中学生に引っ張ってもらえるような学校にしてほしい。中学生も小学生と一緒にになれば、責任感がでて良いのではないか。
- ⑤ 運動会などの行事も、小学校と中学校で一緒にできたら盛り上がりそう。

懸念事項

- ① 中学生の悪い影響を受けるのではないかと心配。
- ② 小学校と中学校で環境が変わらないことは良くないのではないか。
- ③ 小1と中3では、年齢が離れすぎていて、体格差も大きいため心配している。建物としての設備や遊具なども小学生に合ったものにできるのか心配。
- ④ 中学生と合同で使用するとグラウンドが狭くなり、のびのび遊べないのではないかと心配。
- ⑤ 中学生も一緒になると、人数が多くなりすぎるのではないか。
- ⑥ 給食が自校式でなくなってしまうのではないかと心配。

C案について

良い点

- ①障がいのある子と小さいうちから関わることで、お互いを理解でき、偏見もなくなり、とても良いと思う。
- ②どうせ統合するなら、みんな一緒に生活できる環境が良い。
- ③多様性を学べる。いろいろな立場の人と出会って学べる環境の方が良い。
- ④話題性があるので、清和台のまちづくりのためにも良いのではないかな。

懸念事項

- ①川養の子にぶつかったり、感染症をうつしてしまったりと、危険なことが起こらないか心配。
- ②時程や行事がそれぞれの学校で違うため、中学校のテスト週間や受験前など、うるさくならないか心配。
- ③川西養護学校の保護者や先生がどのように思うかが大切だと思う。
- ④C案のイメージがわからないため、何が良いのかわからない。

その他

通学面

- ①通学支援(スクールバス)があるなら、どの案になっても良い。
- ②どの案でも、学校が遠くなるのであれば、低学年の登校が心配。
- ③大きな道路を渡らせるのが心配。

跡地

- ①跡地活用が一番気になる。ほったらかしになると、まちの雰囲気が悪くなると思うので不安。
- ②跡地は子どもたちが活用できる公園にしてほしい。子どもたちが遊べる場所がなくてかわいそう。地域の方の意見を聞くのも大切だが、子どもたちにとって良いまちにしてほしい。

その他

- ①残り1年(6年生)で学校が変わるのは辛いと思う。
- ②統合すると決まったなら、体操服など、統一するものは早めに統一してはどうか。

目次

1. 川西養護学校との意見交換について

- (1) 川西養護学校保護者との意見交換
- (2) 川西養護学校教職員との意見交換

2. 清和台地区保護者との意見交換について

3. 清和台地区児童との意見交換について

4. 今後のスケジュールについて

授業の様子

清和台小学校

授業日 2月2日(月)【4, 6年】
3月5日(木)【5年】

清和台南小学校

授業日 1月26日(月)【4, 5, 6年】

授業の流れ

- ①12月の地域説明会で説明した「2つの小学校がともに学ぶ環境をめざす」という方針を伝える。
- ②2つの小学校が仲良くなるために、どのような交流をしたら良いか考える。
- ③ふりかえり



授業の感想

なかよくなるためのアイデア

- ①一緒に遊ぶ(鬼ごっこ、ドッジボール、クイズ大会、サッカー、学校に一泊 など)
- ②一緒に授業をする(調理実習、工作、体育、クラブ活動、算数教え合い)
- ③校外学習と一緒に行く、一緒に弁当・給食を食べる
- ④清小祭り、清南小祭りに招待する。
- ⑤クリーンアップ作戦など、地域も参加する行事を一緒にやる。

授業の感想

- ①清和台小と清和台南小がこれからどうしていくのかをちゃんと聞いてよかった。
- ②学校が統合することで課題もあることがわかった。いろんな課題を乗り越えていい学校ができる
といいなと思った。
- ③初めに聞いた時は不安に思ったけど、「どんなことをしたら楽しいか」を考えるとアイデアがたくさん出てきて、とても楽しみになった。
- ④みんなで話し合ったら、ちょっとは安心できた。不安なこともあったけど、少しおもしろそう・わくわくするなと思った。
- ⑤3つの案を聞いたけど、まだちょっと心配もある。

意見や感想等について

川西養護学校の保護者や清和台地区の保護者の意見、子どもたちの意見を聞き、今後の清和台の教育環境についてどのように考えますか。懇話会の皆さまの感想やご意見をお聞かせ下さい。

目次

1. 川西養護学校との意見交換について

- (1) 川西養護学校保護者との意見交換
- (2) 川西養護学校教職員との意見交換

2. 清和台地区保護者との意見交換について

3. 清和台地区児童との意見交換について

4. 今後のスケジュールについて

今後のスケジュール(イメージ図)

令和8(2026)年～

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
懇話会	第6回		第7回	第8回	第9回		第10回	
意見収集	保護者・子ども 対象 意見交換会							
意見収集 (教職員)		川西養護		清小 清南小	川西養護			
説明会							第3回	

※日程は目安です。

教育環境と運営場所、開始時期、通学支援などの協議事項について、教育委員会の案を提示します。

參考資料

《参考資料》小学校と特別支援学校が一緒になっている学校

《参考》ひまわり特別支援学校(三田市)

2016年4月 ひまわり特別支援学校 開校

小学部は富士小学校の敷地内に、中学部・高等部は富士中学校の敷地内に開校した。



交流及び共同学習実施先

日常的、継続的な交流及び共同学習を実施しています。
行事交流も行っています。

富士小学校・居住地校

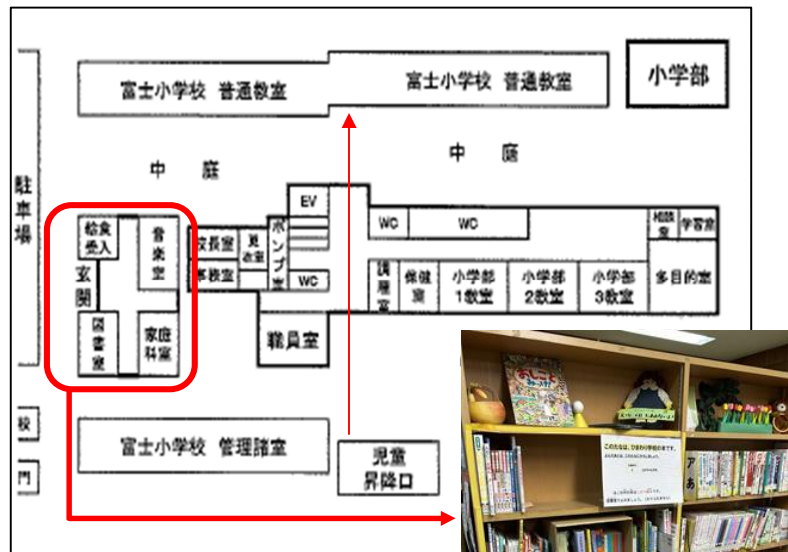


富士中学校・居住地校



《参考資料》小学校と特別支援学校が一緒になっている学校

【校舎の工夫】



図書室にひまわり支援学校用の図書コーナーがある。



【 交流の様子 】

- ①同じ敷地内にあるために、「おはよう」というあいさつから始まる。
- ②小学校や中学校の音楽会や運動会、校外学習の行事に支援学校の児童生徒も参加している。
- ③一人ひとり交流学級を決め、朝の会や参加できる授業を一緒に過ごしている。
- ④昇降口から富士小学校教室に行くまでの動線上にひまわり特別支援学校があることや、特別教室もひまわり特別支援学校の近くにあることで、両校が顔を合わせやすい環境づくりをしている。
※ひまわり特別支援学校の2階は富士小学校の普通教室になっている。

《参考資料》小学校と特別支援学校が一緒になっている学校

《参考》灘さくら支援学校（神戸市）

【 校舎の工夫 】

両校の施設は2階と3階で行き来ができるよう計画。両校の区画周辺に、小学校側では交流ランチルーム、特別支援学校側では多目的室、音楽室などを集約して整備することで、共同学習や交流が展開しやすいように配置上の工夫をしている。



小学校 交流ランチルーム

【 交流の様子 】

- ①特別支援学校内に交流担当を1名配置し、灘の浜小学校の年間計画を見ながら、交流できそうな授業を考えている。
- ②あさのつどいに灘の浜小学校6年生が参加し、歌やダンスなどを一緒にしている。
- ③公園遊びに、灘の浜小学校1,2年生が生活科として参加している。
- ④運動会練習を見学している。
- ⑤1年生では、お互いの学校の学校見学をしている。



ボッチャを楽しむ小学校5年生と肢体不自由部門の小学部1年生から6年生。チームに分かれて作戦を練ったり、反省会を開いたりしている様子。



休み時間に教室でボール遊びやゲームをして一緒に遊ぶ小学校6年生と知的部門高学年生の様子。

《参考資料》小学校と特別支援学校が一緒になっている学校

同じ校舎でともに生活することの意義

【 視察先の校長や教員の意見 】

- ①特別支援学校の子どもにとっては、同年代の友達と過ごすことが刺激になり、意欲や社会性の向上にもつながる。共にいることで、学ぶことが多い。お互いに刺激を受けている。
- ②同じ校舎で日常をともにすることで、支援が必要な子どもが特別な存在ではなく、身近な友達として受け入れることができる。違いがあること自体が当たり前という感覚が育ち、お互いを尊重し合うことができる。
- ③低学年の児童は、支援学校の子どもに対して、「どうして車椅子なの？」など、感じたことを素直に言葉にし、教員が丁寧に説明することで、誤解や思い込みではなく、その子の体の状態や特徴を理解することができる。その経験を日々繰り返すことで、偏見や先入観が少しずつ薄れていく。
- ④お互いに、「できないこと」ではなく、「できること」や「工夫すれば一緒にできること」に目が向くようになり、多様性を受け入れる力が育つ。
- ⑤小学校から交流を繰り返すことで、中学校になってからもつながりが継続する。